

11. ^{たかまつ}高松遺跡

所在地 長坂町長坂上条

調査原因 農道整備事業

調査期間 1998年4月16日～6月5日

調査面積 約100㎡

調査主体 長坂町教育委員会

担当者 小宮山隆・山下大輔



高松遺跡はJR長坂駅から北へ約700m離れた宮川右岸の台地上に位置する。その台地の標高770m前後の南北にのびる尾根上の南端に立地する。今回の調査は農道建設に先立って行われ、調査面積はおよそ100㎡に過ぎなかった。しかし、縄文時代中期初頭から後葉にかけての竪穴住居跡8軒、土坑13基、溝状遺構1本が発見された。

その中でも、特に目を引くのが第7号住居跡（中期後葉後半）にともなう大型炉址である。この炉は平面が1.7m×1.5m、深さが0.7mもあり、管見のかぎりでは県内最大級の大きさである（写真1）。炉の底部からは数点の礫に混じり石皿片が1点出土している。第7号住居跡の大きさは、全体を調査したのではなく一部だけなのではっきりとは分からないが、土層断面の住居跡の壁の立上がりの観察からはおよそ8mであると思われる、他の住居跡と比較して大きいものである。

遺物は縄文時代前期後半から中期にかけての土器・石器が出土しているが、主体は中期中葉から後葉である。プラスチック箱（60cm×40cm×20cm）で27箱分出土したが、土製の匙やミニチュアの有孔土器等が出土した中で、縦8cm×横7cmという大きな中期中葉の土偶頭部が第2号住居跡から出土したことは特筆される。この大きさの頭部に対する胴部の大きさを推定すると、かなりの大きさの土偶になると思われる。

第2号土坑からは中期中葉末の4単位の大型把手をもつ深鉢が出土している（写真2）。この土坑は先述した第7号住居跡の大型炉址の南隅の下にあり、一部分が切られている。4単位の大型把手をもつ深鉢は対になる2つの大型把手が残っており、欠けていた2つの大型把手の内1つはその土器の下に置かれていたが、もう1つは発見されなかった。土坑内にはその土器以外に3個体の深鉢が一緒に埋められていた。

本遺跡は、質量ともにすぐれた典型的な八ヶ岳南麓の縄文中期集落遺跡であり、調査区以外にも尾根全体にわたって良好な遺構・遺物が存在するものと考えられる。



写真1 大型炉址（第7号住居跡）



写真2 4単位の大型把手をもつ深鉢（第2号土坑）